

新幹線プレス

2015年6月29日 No.228

発行者 成田隆浩

編集者 教宣部

JR東海労新幹線地本

職場諸課題の解決の闘いをつうじて組織を強化し、

「たしろかおる応援プロジェクト」を成功させよう！

新幹線地本第21回定期大会開催！

6月27日、大井町中小企業センターにて77名の組合員・OBの参加のもと、新幹線地本第21回定期大会を開催しました。冒頭、4月に急逝された東京車両所分会の菊地伸悦さんへ黙祷をささげ、これまでの菊地さんの闘いを引き継いでいく決意をあらためて確認し開会が宣言されました。議長団には木村代議員（東京車両所分会）・佐藤代議員（東二運分会）を選出し、議事が進められました。

成田委員長は挨拶で「安倍政権の暴走が止まらない。海外からも超右翼政権と表現されている。反対する市民団体や知識人の呼びかけで毎週国会を包囲する取り組みが展開されているが、その中で残念ながら労働組合の参加が少ないと言われている。皆でもっと闘いをつくっていこう」「ボーナスカットや年休問題の闘いは明らかに会社を押し込んでいる。闘いの成果を確認し今後もしっかりと闘いをつくっていきたい」「7月より実施の検修体制見直しは違法な偽装請負の疑いがある。これを覆す闘いは様々なところに波及していく大きな闘いとなる。」「国政にいる我が仲間たしろ議員の働きで闘いの拡大・発展に結びついている。来夏に向けてこの夏からフル回転でたしろかおる応援プロジェクトを推し進め、その闘いを通じて組織を強化していこう」と提起しました。



戦争への危機、それはイコール反対する労働者、反対運動の危機

質疑では、14名の代議員から発言があり、効率化や年休問題に対する職場における具体的な闘いの報告や、不当なボーナスカットをされた仲間からの闘う決意の表明など、活発な意見が出されました。質疑の後杉沢書記長から「職場における異常な労務管理で涙が出るほど悔しい思いをしている仲間がいることに気付かなければならない。職場の重苦しい空気を問題にしなから、職場を変えていかなければならない。戦後70年という節目の年、再び戦争の危機が増すなか、それはイコール反対する労働者、反対運動の危機であるということ



を捉えながら闘いを推し進めていかなければならない」との総括答弁を受け、向こう1年の方針を満場一致で確立し、闘いを推し進める決意を全員で確認しました。